

## 令和8年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和8年6月15日(月) 15:30~16:30

2 場 所 黒沢尻北高等学校 会議室

3 出席者

運営協議会委員 10名/11名(敬称略 五十音順)

薄衣 景子(北上市国際交流会) 小笠原 慎(北上コンピュータ・アカデミー)

小原 昌江(北上市教育委員会) 田鎖 祥子(地元企業関係者)

平野 大介(北上市役所同窓会関係者) 八重樫 満(北上市立北上中学校)

和賀 千穂(本校PTA会長) 菊池 輝昌(西和賀町教育委員会)・・・今回欠席

佐藤 禎信(本校校長) 田代 徹(本校副校長) 木下 博章(本校事務長)

学校職員(オブザーバーとして本校主任5名)

4 内容

(1) 委嘱状の交付

(2) 開会の言葉

(3) 学校長挨拶

本年4月より本校校長に就任。OB校長として懐かしさと責任感に引き締まる思い。委員の皆様の  
おかげで学校運営も順調に進んでいる。高総体等において多くの部活動が活躍し上位入賞している。  
部活動を通して人間育成につなげていきたい。

(4) 自己紹介

(5) 学校運営協議会制度の説明

(6) 会長、副会長選出 会長 平野大介 様 副会長 和賀千穂 様

(7) 協議・・・司会 平野会長

ア 学校経営計画の承認について

目指す学校像 重点目標は、昨年度のアンケート結果をふまえ5%程度目標値を高く変更した。  
いじめ問題や安全面に関してアンケート項目を増やした。達成指標等わかりやすい言葉を入れ、  
本校生や中学生に理解しやすい形にした。

<質疑>

アンケート数値目標の根拠について→今までのアンケート結果を参考、新しい達成指標  
いじめの把握方法についての質問→年3回のアンケート、相談等は随時

イ 働き方アクションプランについて(資料)

時間外月80時間以上ゼロ達成についての質問

部活動外部コーチの利用状況→ほとんどの運動部でコーチを利用することで教員の負担減  
部活動指導員等の手当増額を県に要望

部活動地域移行の進行状況→高校では進んでいない

部活動無所属生徒の割合についての質問→50名(7.8%)

(8) 令和8年度教育活動の説明

資料の通り

今年度県政150周年北米派遣に2名合格→同窓会より10万円の補助予定

(9) 意見交換・・・上記協議で活発な意見が出たため割愛

(10) その他 特になし

(11) 閉会の言葉

## 令和8年度 岩手県立黒沢尻北高等学校経営計画

校長：佐藤 禎信

|   |            |  |  |   |
|---|------------|--|--|---|
| 1 | 校訓・教育目標    | 地域・世界の未来を創るリーダーの育成<br>(社会の発展を志し、お互いの幸福を守り育てる人間を育む)   |  |   |
| 2 | スクール・ポリシー  | (1) 育成を目指す資質・能力に関する方針<br>(グラデュエーション・ポリシー)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の意見を正確に捉える読解力・傾聴力、筋道をたてて考える思考力、自分の考えを相手に伝える表現力を伸ばします</li> <li>・自他の生命を尊重し、他者と協働しながら前進しようとする心を養います</li> <li>・困難を前にして、物事に粘り強く取り組む姿勢を養います</li> <li>・生涯に渡り学び続ける姿勢を養います</li> </ul> |   |
|   |            | (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針<br>(カリキュラム・ポリシー)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・深く考え、主体的に取り組む「わかる授業」「伸びる授業」を行います</li> <li>・生徒個々の将来を見据えた最適な学習活動を行います</li> <li>・外部との連携による多様な力を育む教育活動を行います</li> <li>・「きたかみ世界塾」などの探究的な学びを行います</li> </ul>                           |   |
|   |            | (3) 入学者の受入れに関する方針<br>(アドミッション・ポリシー)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的好奇心を持ち、学習、部活動、委員会活動に加えて、人と社会のために積極的に活動しようとする「志」を持っている生徒を待っています</li> <li>・中学校までの各教科の基礎的・基本的な知識・技能が身につけている生徒を待っています</li> <li>・多様性を、自分と他者を大切にしている生徒を待っています</li> </ul>           |   |
| 3 | 魅力化協働パートナー | 北上市行政関係者、西和賀町行政関係者、北上市教育委員会及び中学校関係者、北上市国際交流協会、北上コンピュータアカデミー、PTA、他  |  |   |
| 4 | 目指す学校像     | (1) 今年度の重点目標   | 重点目標   | 達成指標  |
|   |            |  | ア 黒陵生としての誇りと喜びの醸成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に入学して良かった。と答えた生徒の割合</li> <li>【85%以上】学校評価アンケート</li> </ul>                        |
|   |            |  | イ 学びの充実による学力向上   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容はわかりやすく、学力も伸びている。と答えた生徒の割合</li> <li>【75%以上】学校評価アンケート</li> </ul>              |
|   |            |  | ウ 基本的生活習慣の確立   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則を守り、規律ある学校生活を送っている生徒の割合</li> <li>【85%以上】学校評価アンケート</li> </ul>                    |
|   |            |  | エ キャリア教育充実による進路実現  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、生徒の個性や能力を伸ばし、進路目標を実現しようと努力している。と答えた生徒の割合</li> <li>【80%以上】学校評価アンケート</li> </ul> |
|   |            |  | オ 学校いじめ対策組織の取組を中核としたいじめ防止  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、いじめ問題や生徒の悩みごとの相談にきちんと対応している。と答えた生徒の割合</li> <li>【80%以上】学校評価アンケート</li> </ul>    |
|   |            |  | カ 不適切な指導を根絶する体制の構築   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は生徒が健康的で安全な学校生活を送るために積極的に努力している。と答えた生徒の割合</li> <li>【80%以上】学校評価アンケート</li> </ul>  |
|   | (2) 取組方針   | ア 黒陵生としての誇りと喜びの醸成<br>(ア) 学校の魅力化を促進し、「黒陵のよさ」を自覚できるよう生徒の学校肯定感を高める<br>生徒の主体的な活動を保障し、高校生活の充実を実感できるようにする  |  |   |
|   |            | イ 学びの充実による学力向上<br>(ア) わかる授業への教科指導充実と生徒の学習習慣確立を進め、確かな学力を育む<br>客観的な学力評価ツール等を活用し、生徒個々に寄り添った学習支援を行う<br>(イ) 総合的な探究の時間を中心として探求的な学びの充実をはかり、生きる力を育む<br>探究・STEAM 教育推進事業、高等学校 DX 加速化推進事業を活用し、生徒の課題発見・解決能力を高める。 |  |   |

(様式1)【高等学校用】

|   |              |  |
|---|--------------|--|
|   |              | <p>ウ 基本的な生活習慣の確立<br/>(ア) 「時間の厳守」「挨拶の励行」「掃除の徹底」等、生徒の品性を高める指導に努める<br/>相互の尊敬に基づく良好な関係の構築に努め、生徒・職員の自己肯定感を高める</p> <p>エ キャリア教育充実による進路実現<br/>(ア) 3年間を見通した進路指導計画のもと、生徒のニーズに応じた進路指導を展開する<br/>各課・学年・教科が連携し、全職員による組織的な進路指導体制を構築する</p> <p>オ 自他を大切にする心の涵養<br/>(ア) 自他を大切にする心を育むため、日常的ないじめ防止と生徒理解に努める<br/>いじめを認知した場合、「学校いじめ防止基本方針」に沿って迅速かつ丁寧な解決に努める</p> <p>カ 不適切な指導を根絶する体制の構築<br/>(ア) 全教職員等が子どもの権利条約等についての理解を深め、生徒の人権を尊重した指導を行う。<br/>不適切な指導等を認知した場合、県の指導指針に沿って迅速かつ丁寧な解決に努める</p> |
| 5 | 業務量管理・健康確保措置 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 年次休暇及び振替休暇の取得推進</li><li>・ I C T機器の積極的な活用により、調査や成績処理等業務の効率化</li><li>・ 外部人材の活用により、教員の負担を軽減</li></ul>   |

# 令和8年度 黒沢尻北学校教職員 働き方改革アクションプラン

## ～「持続可能な働き方目標(SWSGs)の設定と実践～」

黒沢尻北高等学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

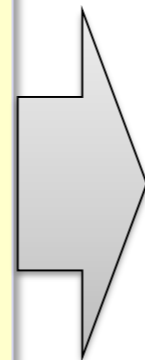
### 1 現状

#### 【定量的現状】

- ◆ 「岩手県教職員働き方改革プラン(2024～2026)」目標達成状況  
時間外在校等時間が月80時間以上の者  
・R7年度:0人(参考:R5年度:4人、R6年度:5人)
- ◆ 年次休暇の取得状況について(年間一人当たりの平均取得日数)  
・R7年度:15.7日(参考:R5年度:15.5日、R6年度:16.3日)
- ◆ 一部部活動の募集停止が行われた(柔道部、自然科学部研究部門)

#### 【定性的現状】

- 教職員の意識  
・ICT機器の利活用及び情報の共有が進んでいる。  
・仕事量の削減、「スクラップ」は容易ではない。
- 管理職のマネジメント  
・ICT機器の利用研修や仕事の平準化を通し、業務改善の取組を進めている。



### 2 目標・目指す姿

県の働き方改革プランの目標を前提に、以下の目標を設定します。

#### 【学校独自の目標】

- 時間外在校時間が月80時間以上ゼロ人を継続する。
- 教職員一人当たりの平均時間外在校等時間を38時間とすることを目指します。
- 年次休暇の平均取得日数を16日以上を目指します。

#### 【目指す姿】

- ・ 教職員一人一人がやりがいを感じながら業務に取り組むことで、質の高い教育を持続的に提供する。
- ・ 教職員が、家庭のための時間や自由時間を確保できている。
- ・ 教職員自身のウェルビーイングを確保する。

### 3 (2を達成していくための) 具体的取組内容

|                    |                      |  |
|--------------------|----------------------|--|
| (1)                | <b>教職員の健康管理</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職が、休暇習得について積極的に呼びかけを行います。</li> <li>・ 勤務時間外在校状況により、該当教職員に声掛けし、健康確保の観点から、面談をします。</li> <li>・ PTA活動等における特割制度の積極的利用を呼びかけます。</li> </ul> |
| (2)                | <b>学校における業務改善の推進</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務改善等の話し合いを持ち、職員発案による業務改善を推進します。</li> <li>・ ICT機器の積極的活用を推し進め、業務効率化を図ります。</li> </ul>   |
| (3)                | <b>業務の明確化・適正化の推進</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働き方改革の取組についてHP等で発信し、業務削減について理解を進めます。</li> <li>・ 部活動については、外部人材を積極的に活用し、教職員の負担を軽減します。</li> </ul>                                      |
| <b>令和8年度重点取組事項</b> |                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和8年度から新たに週休日や長期休業日改革に取り組みます。</li> </ul>  |

### 4 アクションプランの周知方法

- ・ プランを学校のHPに掲載し、会議等を通じて教職員にも周知します。
- ・ 学校運営協議会を通じて、地域・保護者に対してプランの内容の説明を行います。